

三島駅南口周辺開発地下水対策検討委員会
第10回 議事録

I部 現場見学の部

日時

2025年（令和7年）1月31日（金） 13:30～14:15

場所

三島駅南口東街区再開発事業区域（工事状況、地下水観測井戸の説明）

参加者

計33名（委員：6名、マスコミ等：5名、事業者：12名、事務局：10名）

確認事項

- ・東街区再開発事業における地下水対策
- ・地下水観測の様子



Ⅱ部 委員会の部

日時

2025年（令和7年） 1月31日（金） 14:30～15:45

場所

三島市商工会議所 4階 大会議室

参加者

計42名（委員：7名、傍聴者：10名、マスコミ等：2名、事業者：12名、事務局：11名）

選出区分	氏名	所属・役職	出欠
学識（地下水）	辻村 真貴 （委員長）	筑波大学教授	○
学識（環境）	水谷 洋一	静岡大学教授	○
学識（建築）	丸田 誠	静岡理工科大学教授	○
楽寿園運営委員	齊藤 昌広	会長	○
三島ゆうすい会	大村 洋子	会長	○
三島商工会議所	遠藤 正幸	建設業部会 副部長	○
三島市	井口 智樹	副市長	○

※委員の変更 三島商工会議所 山本 良一 → 遠藤 正幸

第10回検討会の様子



議事内容（敬称略）

【1. 開会】

事務局：（開会を宣言）

【2. 委員長あいさつ】

委員長：（開会あいさつ）

本日は現場視察もできて大変嬉しく思っている。

昨年1月に能登半島地震があり、民間井戸が代替水源として活用されたことなどから、災害時や渇水時、気候変動における地下水の代替水源としての役割は、ますます重要視されてくることと思う。

また、昨年には新たな水循環基本計画が閣議決定され、多様な、代替性のある水資源の持続可能な確保がうたわれている。今後、地下水の役割は重要になる一方で、水は普通にあり、きれいであることが当たり前の感覚としてある。そういった中で、我々はそれぞれの立場で、水を持続可能に保全し、利用していくために積極的に関与していくことが求められる。

本委員会においても、皆様から様々なご意見をいただきたい。

事務局：検討事項の議事に入らせていただくが、進行は辻村委員長にお願いする。

【3. 議事】

委員長：（議事進行）

（1）第9回委員会の概要等について

■資料説明 事務局より、資料1について説明を行った。

■質疑応答

委員：地盤耐力や接地圧は、前回委員会で示された数値から変わっていないということでしょうか。

事業者：荷重は変わっておらず、地盤耐力や圧密降伏応力が接地圧を上回ることを確認している。

（2）三島駅南口東街区市街地再開発事業の進捗状況等について

■資料説明 事務局より、資料2について説明を行った。

■質疑応答

委員：親杭横矢板壁の先端深度を地下水位が上回った場合、周辺の地下水はどのように流動するのか。

事務局：基本的には迂回して流動する。親杭横矢板壁は、矢板のある掘削部以深では親杭のH鋼材のみが打ち込まれる構造となっている。地下水位がH鋼材の先端まで上昇した場合でも、その間を流れていくと考えられる。

委員：現場着工時の確認として、掘削完了後に床付け面にて平板載荷試験を実施し、地盤の許

容支持力を確認すると記載があるが、確認した結果は。

事業者：2025年1月16日に中心部1箇所を実施しており、十分な地盤耐力を有することを確認した。今後、残りの4箇所についても確認していく。

委員：地盤改良はどのようにして行うのか。

事業者：溶岩層より上部の土層に対して、固化材としてセメントを使用する。地下水の帯水層となる溶岩層に対しては行わないことから、環境影響は生じないと考えている。

委員：設計における構造物の耐力はどの程度であるか。

事業者：常時荷重に対する許容耐力は85t/m²程度、終局耐力は許容耐力の3倍程度で約260t/m²である。

委員：p.33の地下水に関するモニタリング結果については、ホームページに公表しているとあるが、今回の委員会での確認はこのページだけか。

事務局：このあと、次の議題で詳しくご確認いただく。

委員：通水口は、工事が進むと見えなくなってしまうと思うので、その施工過程を市民にも開示できないか。

事務局：市ホームページにおいて、施工状況の写真などを確認できるようにしていく。

委員：将来的に通水口が目詰まりする可能性があると思う。

事務局：目詰まりが起きる可能性を最小限にする対策として、有孔管の周囲に砕石を設置するなど、土木的な手法で対応していく。

委員長：地下水は溶岩の隙間をじわじわと流動していて、パイプの中をスーッと流れているというわけではないので、仮にパイプの中に土が入ったとしても、自然科学的に言うところほど問題にはならない。

委員：D棟が調整池となっているようだが、調整池と地下水位の高さ関係はどのようになっているか。

事務局：現在は、B棟が調整池となっている。調整池の底面よりも地下水位の方が低い位置にある。

(3) 地下水調査結果

■資料説明 事務局より、資料3について説明を行った。

■質疑応答

委員：p. 17 の電気伝導度について、No. 6 は値が一定であるのに対して、No. 7 は値が上昇することもある。変動のパターンが少し違うことについて、考えられる原因はないか。

事業者：現場で採水して測定した結果では、No. 6 も No. 7 もほぼ同じ結果となっている。同形式の機械を設置しているが、機材ごとに測定の際のようなものがあるようである。現場でも調整して測定しているところである。

委員長：もともと河川・湖沼や工場・養殖場で測定するために設計されたもののようなので、細かい水質の変動を捉えることは難しいのかもしれない。

事業者：pH 電極の内部液が流出する影響で、周囲の電気伝導度が上昇する可能性がある。また、No. 6 と No. 7 の設置環境の違いも原因として考えられる。

委員：今後の対応策などはあるのか。

委員長：現場で採水してポータブル計で測定した結果と合わせて確認することが大事だと考える。また、地下水が流動する中で測定しているので、流速の影響もあると考えられるが、その可能性は限りなく低いと思う。

事業者：一度計測機を入れ替えて設置したが、機材によらず No. 7 では上昇傾向となった。

委員長：何か甚大な影響を及ぼすということではないと思うが、この件はフォローしていく必要がある。

事務局：今後の対応を検討しているところである。

（４）今後のスケジュール

■資料説明 事務局より、資料４について説明を行った。

■質疑応答 なし

【４．意見交換】

■質疑応答 なし

【５．閉会】

事務局：今年度末の３月に、本委員会の委員の任期更新のタイミングとなる。ぜひ皆様には委員を継続いただき、本事業にご意見賜りたいと考えている。改めてご依頼する。

-以上-